

二、作業期に就ては舊慣の良俗を其のまゝ春秋二期或は四期によるものが相當多數で一齊作業日を設定し、更に各各班では交通狀勢に應じ随時保全に當る外毎月常設的に各各班から若干名宛を出動して縣道路工夫と共に同作業に奉仕する計畫となつてゐる。

三、參加團體の各地は着々と實施され其の成績は著しきもので最近一齊愛護デーの實施された町村は

- 田方郡函南村道路愛護會 一八三名
- 賀茂郡城東村道路愛護會 六八五名
- 同 郡上河津村道路愛護會 四五名

## 懸賞受賞兒童の歡喜は斯うだ

編輯卓上に配達された一封の郵書は熊本縣上益城郡七瀬村上野尋常高等小學校上田弘と署名せるものであつた、披

見するまでもなく手に取るや直感的にア、あの「道路の有難さ」と題した小學兒童の「天」に選ばれた實話入選の事

- 同 郡稻取町道路愛護會 一五〇名
  - 安倍郡玉川村道路愛護會 三八七名
  - 榛原郡五和村道路愛護會 七〇〇名
  - 引佐郡鹿玉村道路愛護會 七〇名
  - 同 郡鎮玉村道路愛護會 一一三名
- 何れも地元町村長の指揮で全員燃ゆるが如き道路愛護の奉仕的精神を打ち込んで極寒と闘ひつゝ緊張裡に行はれ各地とも熱烈なる新興の意氣にあるので道路愛護の革新運動の全縣的普及も遠きにあらずと縣當局は大いに期待してゐる。

洮

民

に關しての事だなど思はれた、披き見れば果せるかな、上田訓導より水野會長にあてた感謝狀であつた、一讀して如何に村民に感激を興へられたかが察知せらる。村は飯田山の東南山間部に位し人口五千三百位を有する地である、受賞兒童の歡喜は勿論其の家族達の夫れも文面にあふれておるのである左に上田訓導の感謝狀及受賞兒童の一文を掲載して吾人も其の歡喜に觸れんとするものである。

### 上田訓導の感謝狀

拜啓 閣下には益々御清榮の段お喜び申上げます業務多端な折柄嘸御多忙の御事とお察し申します。

扱て先般道路改良會主催の懸賞實話公募に私方六年生徒が自分の體驗實話を綴りまして應募致しました處幸にも「天」の成績で熊本縣より唯一人入賞の榮を得、先頃其の賞品も到着致しましたが本人はもとより學校を始め村の有志家庭の方々皆學校の名譽、本村の名譽だとそれは／＼大喜びでした。擔任としての私の喜びは何とも申上げ様も御座いま

せんでした。この一人の生徒のため、私見た様な者でも色々賞讃の言葉をいただきましたが二度と得られない榮冠だと思ひますと本當に今回の御催が或ひは私の教育生活中記念中の記念となるかと思ひます。かう申しましては甚だ失禮となるかと思ひましたが何か會長閣下の御サインをと思つて居りますが何分遠隔の地を残念に思ふので御座います。

別紙の通り先日綴方の時間に私の手元に出しましたものをお送り致しまして本人からの御禮にかへたいと思ひますがあの事以來本人は非常に意氣込んで將來に向つて一層覺悟を固めた様で御座います。丁度小學校も學年末で計算競技會やら學藝會、新入學兒童の調査等學校行事も相當ありまして早く／＼と思ひながらも今日になつてしまひました。右は延引ながら厚く御禮申上げます。

亂筆で失禮の段幾重にも御詫び致しますお手紙を差上げるやうな身分では御座いせんが私の教へ子のために御禮状差上げましたので御座います何卒今後共御指導の榮を賜

りたく書狀を以てお願い申し上げます。 敬具

昭和十二年三月十二日

熊本縣上益城郡七瀧村上野尋常高等小學校

訓導 上 田 弘

水野鍊太郎閣下

## 僕の喜び

或日の事でした。教室に入つてゐると先生がにこ／＼し

ながら教壇に立たれました。何だらうと思つて笑つて居ると、思ひ掛けなくも僕の綴方が入賞したと話されました。

私は嬉しくて／＼思はず知らず嬉し涙がぼろりとこぼれました。私は學校から歸るとすぐ家の人に話しました。家の人も、

「ほんとうかい」

と何度も繰返して尋ねられ大喜びでした。僕は其の日から指折り數へて賞品の來るのを待ちましたが何日立つても來ない。待ち長くて／＼たまりませんでした。先生方も、

「もう來ないのだらう」

と言つて居られました。おちいさんも昨日校長先生が、

『本が送つて來たからもう來ないだらう。』

と言はれたのでもういよ／＼來んばいと言ひ悲しさを顔をして居られました。

僕も悲しくなつてどうして送つてやりなさらないのでだらうか、先生の言はれたのがうそだつたか知らんと自分一人で唯氣をもむばかりでした。

月日は立つて丁度二ヶ月目の日の事、一時間の授業が終つた頃僕は友達と廊下を歩いて居ると校長先生が職員室からお呼びになつたので、何だらう叱られるのではないかとびく／＼しながら行くと先生が、

「藤本君賞品が來たぞ。」

とにこ／＼しながら渡されました。此の一語を聞いた僕は嬉しくて／＼、胸がどき／＼してたまりませんでした。

來ないとおきらめて居た所に、嬉しくて／＼きまり悪いやうでもち／＼しながらあけられるのを見て居ると美しい箱

の中にペンシルセットと書いたそれはく、良い物ばかりで  
又りつばな物ばかりで見ている中に又々嬉し涙が生まれ  
た。私は學校が終るとすぐ走つて賞品を持つて元氣よく家  
に歸りました。家の人に見せるとおぢいさんもおばあさん  
も皆涙をぼろく、お流しになつて、

「りつばな物だ、これは何にするのだらう、あゝこれは金  
の様に重し」

と嬉しさうにおばあさんもおつしやいました。私は嬉し  
くて何とも言ふ言葉を知りませんでした。

僕は賞品が箱の中に入つて居るから何かの箱に入れて床  
の間に飾らうと思ひます。そして賞品は大きくなつて良い  
人になつたら机の上に飾つて置いて勉強しやうと思ひま  
す。こうして勉強したらどんなに心持が良い事だらうと思  
ひます。家の人も學校の先生方も家族の人も本當にうれし  
く思はれ賞品を見せると、  
「りつばな物だ。」

と涙をぼろく流しなさいます。學校に行つて先生から

ほめられると、うれしくて仕様のないやうです。

僕は此の遠い熊本から東京に居られる偉い會長さん始め  
皆々様に厚く御禮申し上げます。

熊本縣上益城郡七瀧村

上野尋常高等小學校六年 藤本次雄

春雨や風呂場の窓に迫る山

初 聲

輪御光に浴え返る灯や阿彌陀佛

菜の花に黄昏遅し渡船道

辭儀すれば落つ金簪や春灯

モデル臺に据り沈丁の香に酔へり

雛祭りや女一人の嬉致よし